

「国民之友」と「日本及日本人」 (徳富蘇峰と三宅雪嶺)



- * 中尾家文書（宇部市）5「国民之友付録（年中行事）」
- * 「国民之友」第243号（明治28年1月）付録の、年中行事の冊子です。表紙には、「国民之友」「国民新聞」「家庭雑誌」（いずれも民友社による刊行）を読む家族が描かれています。
- * 当館には河田家文書に徳富蘇峰の書翰が数通あるほか、著作物も橋本正文文庫等にあります。

解説

徳富蘇峰は1887（明治20）年に民友社を設立して総合雑誌「国民之友」を創刊し、平民主義を唱えました。

また1890（明治23）年には「国民新聞」を創刊するなど、明治中期から近代の代表的言論人として活躍しましたが、日清戦争後は国家主義の立場を鮮明にし、藩閥や軍部と密接な関係を結んだため、日露講和に反対する日比谷焼き打ち事件では社屋が焼き打ちにあいました。

一方、三宅雪嶺は1888（明治21）年に志賀重昂らと政教社を創設して「日本人」（のち「日本及日本人」）を発行、国粹保存主義を主張しました。欧米文化が激しく流入する時代状況のなかで、東洋や日本の固有の価値を正当に評価する、有力なオピニオン・リーダーの一人でした。



- * 吉田樟堂文庫2217(左) 及び雑誌文庫の「日本及日本人」
- * 左は1908年、右は1926年の刊行ですが、三宅雪嶺は1923年には政教社を去っています。